

Indianapolis, Indiana

2012年2月22日

収録パート：「Different Live of Truth」

Disc 5 & 6 (Shades 478)；

「A Best Kind of Truth」

DVD-R (Shades 479 Bonus Disc)

ファン評の多くがこの日の公演を絶賛しており、それはやはり遂に「Hear About It Later」がセット入りした事がポイントとなっている様だ。初演という事でまだ甘さの残っている感もある演奏ぶりだが、このままセットに定着すればより冴えたテイクが披露されるだろう。その代わりに「Mean Street」が落とされてしまったのが残念で、どうせなら今ツアーのアキレス腱となっている「Dance The Night Away」と入れ替えて欲しかった。この曲の前の「China Town」はまだタイトさを欠く混沌としたものとなっている。この日の録音は初日同様 Ironchef によるものが流通しており、全体的にやや丸みのある音質で各パートのバランスも良好である。この後のシカゴ公演の音源もやはり同テーパーによるほぼ同音質のものである。だがこの公演に関しては奇跡的な出来を誇る映像が残されており、何を差し置いてもまずそれを観るべきだ。「Runnin' with the Devil」とドラムソロ以外の部分をステージ前数列目の位置から録画したプロショット並の安定した迫力の映像（脱落している部分もステージを正面から映したもので補われている）で、今ツアーを通してこれ以上のものは出てこないかもしれない。後述するフィラデルフィアとボストン音源と並び、正に決定版といった必見映像だ。音質も紹介した音源をリマスターし、より骨の太い最高級の録音でシンクろさせており文句のつけようがない。

★ ★ ★ ★ ★

United Center, Chicago, Illinois

2012年2月24日

収録パート：「Different Live of Truth III」

(Shades 478) Disc 3 & 4

ここまでのパフォーマンスの中で最も影の薄い公演。まず何と言ってもデイヴのヴォーカル

が不調で普段より声が若干掠れており、なんとか高音をヒットしようとするのが裏目に出て音が外れ捲くっている。だがこれには理由があり、彼のヘッドセットのマイクの接続が悪く、弾ける様なノイズが曲中に出ているのだ。音源を聴いていれば分かるのだが、これはかなり耳障りである。そこで手持ちのワイアレスマイクに切り替えたのだが、これも作動せず結局「Everybody Wants Some!!」以降コード付きマイクでショウをこなす事になった。これが彼の動きを制限し、通常通りのパフォーマンスを披露できなくなったデイヴはかなり頭に来ていたらしい。そこに喉の疲れが加わり、最早プロ根性だけでショウをこなしていたのは、「Ice Cream Man」のイントロが非常に短かった事からも想像出来る。その分エディが頑張っており、この日は「Panama」もしっかりと決まっていた。セットリストはデトロイトと全く同じだが、この音源はとにかく音が良いのでやはりファンならば外せないものとなっている。

★ ★ ★ ★ ★

Madison Square Garden, New York, New York

2012年2月28日

収録パート：「Different Kind of MSG」

(Shades 479) Disc 1 & 2

散々だったシカゴから4日おいて遂に花舞台MSGである。この日はこれまでの総決算ともいふべきパフォーマンスが展開されており、「You Really Got Me」で始まるセットの中では最もタイトな演奏が披露されている。デイヴの声も「Dance The Night Away」と「Everybody Wants Some!!」以外では良く出ており、初日以来の出来だ。この公演からヘッドセットを捨てワイアレスに変えたのが功を奏したのかもしれないが、何故かオープニングでは演奏とのタイミングが合っていない。同時に殆ど使われなかったキャットウォークも排除された。バンドの演奏に関しては何もいう事はないだろう、MSGという事で通常以上に気迫の籠ったプレイが展開された。セットリストは超良質映像・音源の存在するインディアナポリスと全く同じだが、ネット上に出回っているCA-14 Omni'sにて録